

## 現代御師

秋田 耕司

### 1. はじめに

この論文を書き始めたのは昨年からであったが、2020年2月頃からの「新型コロナ」の世界的流行(パンデミック)によって、日本のみならず世界的にも生活の仕方を大きく変化しなければならなくなってきた。特に、世界中で人の移動が制限され、大いに期待されていた外国人観光客(インバウンド)は皆無となり、国内旅行者も激減して観光に大きな打撃を与える結果となった。反面、「リモートワーク」による「脱東京」、などの新しい風潮が生まれ、経済活動そのものが「地方へ拡散」する可能性が大きくなっていて、この事態を「伊勢の好機」と捉えることもできる。毎月のように伊勢探訪をしている自分の経験を通じて、その展開方法を「伊勢の御師に学び」模索する。

改めて、今回の募集論文の目的を明確にすると、次の2つである。

(1)伊勢の文化的風土、まちづくり等に果たした「御師」の功績を検証し、価値の再考を行う。

(2)(1)を参考に、今後のまちづくり、人づくりにつながる先進的な研究・提案を求める。

この目的に従って、御師の功績の一端を検証し、現代伊勢のまちづくり、人づくりにつなげる方法を提案するものである。その骨子は、

(1)市中に広く観光資源を再開発することで、新たなまちづくりのベースコンセプトを立案する

(2)伊勢の長い歴史、独特な文化や風習、さらに技能や芸能などを広く知らしめる方法を確立することで、世界に真の伊勢ファンとしての「伊勢人」を創ることである。その結果として、伊勢の新たな魅力が発信され伊勢への親しみが大きく醸成されることによって、観光リピーターや定着住民の倍増につながり、町の活性化に寄与するものとなるに違いない。

### 2. 伊勢御師の役割

どんな日本人も「一生に一度はお伊勢さんへ行きたい」という。しかしながら、この感情は自然に芽生えたものではない。平安時代から明治初期まで千年以上に亘り、脈々と存在していた「伊勢の御師」達が全国津々浦々に、毎年のように足を運び、伊勢神宮の素晴らしさをアピールし続けた結果であった。そして、この感情が現代にも継承されていることは驚くべきことである。

改めて、旧伊勢御師の役割りを挙げてみると、次の3つに集約できる。

(1)日本各地で「伊勢神宮」の有り難さを説き、伊勢参宮を誘った。(広報活動)

御師は自ら、あるいは、その代官や手代等もが諸国の担当する檀家(檀那、旦那)のもとに毎年赴き、御祓大麻や土産物(伊勢暦、伊勢和紙、丹生の白粉、熨斗・干鮑、櫛や墨、海苔など伊勢の名物)を配り、檀家のために祈祷を行ないながら、「伊勢神宮」の有り難さを継続させ、「一

生に一度はお伊勢さんへ行きたい」、「死ぬまでにもう一度、お伊勢さんに行きたい」という庶民究極の願望を創った。

## (2) 参宮のための旅行システムの確立

「伊勢講」といわれる参宮組織を構成させて、参宮そのものが誰でもできる仕組み(代参)を定着させた。地域担当御師が旅行業者を兼ね、旅費、参詣費(初穂料)、遊興費などを心配する必要のない前払いシステムを確立することによって旅のハードルを下げ、さらに旅行中には同行するなどして旅の便宜や安全を図るなど、至れり尽くせりの奉仕をしている。

## (3) 観光・遊興を含む伊勢参宮のお世話

伊勢に檀家が到着すると「御師」は伊勢神宮から遠く、小俣、明野までも迎えに行ったと言うが、その手厚い奉仕が始まる。それぞれの御師は自邸を宿として提供し、本来の目的である伊勢神宮へのご祈禱を、伊勢神宮私幣禁断のため、多くは自邸神楽殿で奉仕し、檀家の祈願を神前に取り次いだ。その後、伊勢神宮参拝を先導し、名所旧跡を案内する。帰宿後、疲れた体を癒やすように、普段、食することができないような豪華な食事を振る舞い、分厚い布団に寝かせた。そして、(本来の目的だったかも知れないが?)ある夜は「伊勢まいり、大神宮へちょっと寄り」。日常、貧しい生活をしている檀家にとって、夢のような大名旅行気分を味わったに違いない。

## 3. 現代御師の役割

前述3つの役割りを現代に置き換え、それらを実現する面的方法を模索すると、

### (1) 世界各地で「伊勢神宮」の有り難さを説き、伊勢参宮を誘う(広報活動)

#### 1) 伊勢へ誘う予備知識を広める(最重要ポイント)

伊勢商工会議所が行っている「検定 お伊勢さん」は、1)の目的に正に合致したものと言えるが、内容が濃く、いわゆるマニアを創出しているようにも感じる。もう少しだけ、雑駁な知識で良いので、伊勢を訪れたいという意欲をもたせられる知識を教える場があって欲しい。

関東で活動している「NPO法人 伊勢志摩さいこう会」では定期的に伊勢に関する講座を開催している。伊勢でも、やまだ大学の活動もあるし、郷土資料館の常設・特別展示、あるいは、図書館などでも時折、伊勢に関する深い知識を学ぶ講座があるが、それらを再利用されないことは非常に勿体ない。これらを開催毎にビデオ撮影され、融合的に関連付けて、ユーチューブでアップして世界に紹介されるべきである。あるいは、受講者がいない講座の撮影でも良い。これらの講座の充実と発信が「伊勢人」を醸成し、今後の観光リピータや定着住民の倍増につながるだろう。

その講座テーマは伊勢の文化や歴史、また、独特な生活習慣などに根ざしていることが必要で、その一例として次のような事項が考えられる。

○笑門とは？ 本当に伊勢にしかないか？ ○世古とは？ ○御師とは？伊勢独特か？

○御師料理はどんな献立？ ○伊勢うどんと言っても各店味が違う なぜ柔らかい？

○江戸の銭湯を最初に開いたのは「伊勢の与一」である

- 伊勢参宮はなぜ自由にできたのか？ ○江戸幕府が伊勢参宮を禁止できない理由
  - 元伊勢とは？ ○どうして仕える外宮が内宮と同程度の格式(形式)をもつのか？
  - 式年遷宮と慶光院(尼僧・仏教)との関係は？ ○伊勢にお寺はあるか？
  - 遷宮の奉曳車の「太一」とは？ ○伊勢神宮と伊勢産土神社との関係？
  - 電車型のバスはなぜ走行しているのか？
  - 伊勢には3つの鉄道と一つの路面電車が運行していた
- また、NPOや関連団体との連携を強化(協議会の設立)し、テーマや内容を充実したい。

自利利他 旧御師松岡宗大夫邸保存再生協会 五十鈴塾

神社みなとまち再生グループ 二見浦・賓日館の会 伊勢河崎まちづくり衆

さらに、将来を担ってもらうためにも小中高学生に郷土史をもっと教えて、小中学生にも観光ガイドを務めてもらいたい。特に中高生には各校に「伊勢御師部」を創設してもらい、伊勢の歴史を学びながら、伊勢観光を発展させるようなアイデアを創出させ、それらを各校で競い合うようなコンテストが開催され、それを伊勢の観光業者がバックアップする、というような体制ができることを期待したい。

2) ツールとしてのホームページ

現代でも昔の御師のように日本国内のみならず世界各地に赴き伊勢をPRしたいが、それは難しい。従って、広報活動をするには、拡散力や費用の面で相変わらず、ホームページ(以下、HPという)以外はないように思うが、その形式や内容と検索順位のアップがその効果を左右する。

A) スマホ対応のHPが基本

これまではパソコンの横長画面でページを構成したけれども、老若男女の一人ずつが携帯するようになったスマホは現在、情報送受信のメインとなった。可搬性に優れ、レストランの予約や地図の検索など旅先で大いに実用性を発揮する。従って、その「小さい縦長画面」に対応し、内容が伝わるような簡略化したデザインが必要である。そして、さらなる深層情報は別画面にリンクすることで簡略化デザインは実現できる。それら深層情報はフェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ユーチューブ、タイムラプス動画などを活用することで、さらに興味を深められる。

B) 無料WiFi

通信環境も「5G(高速データ通信規格)」環境が整う時代である。観光客を誘導したい地域をカバーするように設置された「無料WiFi」はさらに大きな効果が発揮できるので、官民合わせて一元的な配信会社を早期に設立すべきである。その運営費は観光業者、飲食業者などから広告費として徴収する他、税の増収も期待できるので市も資本参加すべきであろう。

C) 既存HPとの協力と統合

しかし、HPの内容がありきたりでは誰も見ないし、逆に、内容的に伊勢の魅力のすべてを網羅させるのも甚だ難しい。従って、既に伊勢神宮の有り難さや伊勢の魅力を発信している深層情報HPは以下のようにたくさんあるので、それらと協力し合い、「統合的な」HPを構成することに注力すべきで

ある。関連のHPは一部ではあるけれど、以下のようにたくさんあることを認識して欲しい。

<公官庁等>

[伊勢市役所](#) [伊勢商工会議所](#) [伊勢国際交流協会](#) [鳥羽市役所](#) [志摩市役所](#) [南伊勢町](#) [三重県総合博物館](#) [伊勢神宮](#) [伊勢神宮崇敬会](#) [伊勢やまだ大学](#) [伊勢市産業振興会](#)

<観光>

[伊勢市観光協会](#) [鳥羽観光協会](#) [志摩観光協会](#) [南伊勢町観光協会](#) [観光三重](#) [伊勢志摩を歩く伊勢旅館組合](#)

<参考文献>

[国立国会図書館デジタルコレクション](#) [三重県立図書館](#) [日本の古本屋](#) [伊勢志摩出身の著名人](#) [伊勢新聞](#) [伊勢志摩経済新聞](#) [伊勢文化舎](#)

<歴史関連>

[伊勢探訪記](#) [いにしへの伊勢](#) [伊勢のはすがまえのブログ](#) [伊勢の街を御案内](#) [伊勢への道](#) [伊勢街道](#) [ちょっと古めの写真集<伊勢編>](#) [伊勢春慶のふるさと河崎\(歴史\)](#) [みえの歴史街道](#) [日本とユダヤのハーモニー](#) [伊勢神宮の謎に迫る!](#) [新富座資料館](#) [古市](#) [大林寺](#) [伊勢の古市](#) [伊勢市立伊勢古市参宮街道資料館](#) [古市遊女お久](#) [街道 Walker 第13回](#) [伊勢街道](#) [伊勢古市歌舞伎保存会](#) [三重県浮世絵コレクション](#) [伊勢志摩きりぎりす](#) [伊勢百景](#) [中部・東海地方2の町並](#) [伊勢街道一人旅](#) [伊勢音頭保存会](#) [集落町並み Walker 三重](#) [伊勢河崎商人館](#) [伊勢まちかど博物館](#) [伊勢くすり本舗](#) [萬金丹の歴史](#) [山口屋伊勢うどんの歴史](#)

さらに、これらのHPに掲載がない内容のみについては魅力的なHPを自作するのは当然である。

単なる観光資源の紹介ではなく、伊勢の長い歴史、独特な文化や風習、さらに技能や芸能などを紹介し、「伊勢人」を醸成するようにベクトルを合わすことが出来れば、相乗的な効果を発揮するHPとなるだろう。これらHPが全世界的に広がって、伊勢ファンとしての「伊勢人」が育成され、彼らが「現代御師」となって、大いにPRに務めてくれることを確信している。イタリア半島にあるサンマリノ共和国に伊勢神宮ゆかりの神社が作られたのはその一例である。

D) 英語対応

海外での伊勢神宮への興味の熟成や伊勢を訪問したい海外旅行者インバウンドの勧誘を考えれば、少なくとも英語のページ制作は必須である。この時に必要になるのは翻訳作業であるけれど、一般的に依頼すれば多額の費用が必要になる。それを節約するためにも、ボランティアしてくれる「伊勢人」がいると期待したいが、若者に興味を持ってもらうためにも中・高校の「英語研究会ESS」の生徒たちに依頼し、見返りに活動資金を補助するなどすれば、同時に明日の「伊勢人」を育むことになるだろう。

E) 音声ガイド

また、名所巡りで歩きながらスマホ画面の字を読むというのも(字を拡大する機能はあるけれど)難しいし、身体的に不自由な方々にも活用してもらおうことを考えれば、音声ガイドがあることが望ましい。

現在の所、音声ガイドがあるHPは全国的に見い出せていないので、先進的であることに違いはないと考える。こちらも翻訳と同様に、中・高校の「放送研究会」の生徒たちに依頼できないか？

## (2) 参宮のための旅行システム現代版「伊勢講」の確立

積立型伊勢参宮ツアーを企画する。積立金は毎月5千円とすると1年で6万円。それで2泊か、2年分で4泊くらいで交通費込み、観光付きが可能となる。伊勢に入ったら、帰宅までお金の支払いの心配はなくし、帰りは土産付きで帰りたい。観光プランは毎回、文化や歴史、独特な生活習慣を交え、テーマを替えるのは当然で、レポートしても飽きが来ない、そんな旅行プランなら何度も参加したくなる。帰りに余剰になった少額でも返金すると大変、喜ばれる。

## (3) 伊勢参宮(観光・遊興を含む)の案内

### 1) 名所とバス路線のリンク地図

作成された魅力的なHPは伊勢参宮の時に充分、力を発揮するけれど、さらに役立つページを提案したい。伊勢を巡る時に必要な情報で現在ないものが、伊勢神宮や名所旧跡とバス路線(時刻表を含む)とをリンクする地図がないことである。伊勢は小さいとは云え、参宮や観光のために徒歩だけの移動は難しい。観光客を神宮参道からさらに市内の広範囲に観光客を誘導するためにもバス利用を促進したいが、現状、個別の案内はあっても、どのバスに乗れば目的地近くまで行くのか、何時にバスが来るのか、統合的に分からない。

### 2) 旧跡石碑にQRコード

伊勢の名所旧跡には必ずと云って良いほど、それを表す石碑が建立されているが、知識のない観光客がその意味を理解できるはずはない。そこで、その石碑に「QRコード」を貼り付け、それをスマホで読み取れば、前述のHPにリンクされ、昔の写真や由緒などの説明が出てくるので石碑がただの石碑でなくなる。QRコードは小片を一度、貼り付けるだけで良く、費用は低額で済み、そのリンク先は前述のHPであるので内容の更新、改訂は容易で安価に可能である。道すがらの利用であるので、写真などを多用した画面構成と音声ガイドが強く要求される。可能ならばヴァーチャルリアリティVRや拡張現実ARによる具体的な画像が配信できれば、より興味を強くできるだろう。ただ、これらにはコストの問題はあるけれど、VRは昔の町並みをスマホ上に再現できるし、ARはスマホからキャラクターが観光案内をしてくれるようになって、観光客により分かりやすい案内が提供できる。

### 3) 伊勢まちづくり500m生活圏構想への発展

さらに町歩きで必要なのは「公衆便所」であり、それが1)の地図に記載されていると尚、有り難い。それら公衆便所が、スマホが充電できる「道の駅」的なものになれば、さらに理想的だろう。そこでは、現在あまり活用されていないように思う「まちかど博物館」の役割りをもたせ、地域の文化を紹介し、食堂・酒場・銭湯等の案内を加え、地域ごとの観光の拠点となるような発展が考えられる。それらを「まちづくりの中核」として機能させ、さらに生活関連のお店と結びつけることで歩ける生活圏を形成

する町づくり(伊勢まちづくり500m生活圏構想と名付けているが、ここでは詳細を省略する。)も実現できる。空き家も多い昨今でもあり、高齢者も活用でき、安価に体制を実現できるのではないか？

#### 4) 市内観光プラン

○体験型旅行プラン:これからの観光は「文化」を売るのが主流となる。

これから伊勢市を発展させるためには、伊勢に何度も足を運んくれるリピータを育成するのが最大のポイントだと考えている。そのためのツールが「伊勢文化の体験」である。一例を示す。

- ・伊勢の偉人(太田小三郎、尾崎罌堂、等)や旧跡をテーマにした町歩き(ブラタモリのツアー)
- ・世古巡り:世古は南北方向の路地、東西方向は小路というが? 各世古には石碑がある。
- ・近鉄が発行している「てくてくまっぷ」は旅人を伊勢神宮以外の地域を広く案内するもので評価したいが、市街地の案内が少ないので同様の形式で関連したコースを増やしたい。
- ・葵の御紋寺巡りなど、神宮と寺の関係は? 昔は伊勢にもお寺がいっぱいあった。
- ・宇治と山田産土8社巡り 御朱印付き:伊勢神宮と産土神社との関係は?
- ・伊勢まるごと博物館、まちかど博物館めぐり
- ・笑門のいろいろ:笑門にもいろいろな形がある。探してみよう!
- ・伊勢町屋の破風には、直く、むくり、反りがあるけれど、市中で探索ツアー
- ・伊勢春慶塗・根付製作体験 ・山田奉行所での「大岡越前守お白州体験」
- ・銭湯めぐりや旭湯の潮参宮(アトピー患者が治癒できないか?)
- ・伊勢のお寺で断食ファステング修行(お寺も檀家減少で困窮している)
- ・伊勢には医者が多い。健康診断受診と検査後に契約レストランでの豪華伊勢海老料理堪能
- ・商店街アーケードで「ジャズバンドフェス」開催:日本中でも珍しいくらい伊勢はジャズが盛ん!
- ・伊勢の祭に出場者として参加してもらおう。特に観光客が少なくなる2・8の時期が良い。

10月:「伊勢音頭講習会」と伊勢まつりで伊勢音頭を踊る

2月:御頭神事関連 8月:かんこ踊り関連、など 等々

○電動自転車のレンタルは既にあるけれど、運転しながらスマホの充電が可能な機能があれば、大きな威力を発揮する。

○どのプランもタイムラプス動画を撮影して配信、宣伝に務めることも有効だろう。

- ・朝熊山ご来光や天の川タイムラプス動画発信と見学ツアー

#### 5) 宿泊・食事

○河崎を「町ごと」古民家民泊街に

通りは旅館の廊下、レストラン・居酒屋は旅館の食堂、宿泊場所は旅館の寝所

伊勢町屋が林立する河崎の歴史ある町並みは優れた観光資源であるにも関わらず、伊勢市駅そばのホテル群に近いという有利な立地も生かされていないのはあまりに惜しい。現在、伊勢は宿泊施設不足が続いており、オリンピックを控えて益々、来勢者が増加する可能性があるにも関わらず、近隣の鳥羽や志摩にそれを譲っている状況である。そこで、総合的に河崎の町をそのまま生

かして、河崎の通りを縦断するような古民家民泊街にできないだろうか？

- ・総合管理会社の設立

そうした案があったとしても高齢化した家主にその意欲を求めるのは心苦しいし、昔、貸家をして、軒先貸して母屋取られる事例も経験していることなどから、永続してきた家を他人に貸すことに躊躇があるだろう。そこで、しっかりした管理と責任をもつような安心できる組織が運営することによって、それらの不安を解消出来る。河崎古民家民泊管理会社である(丸亀方式)。そこでは、賛同した家主から預かった物件を総合的に企画して、工事、管理運営を行う。

- ・安価にできる飲食業/民泊業の創業セミナーの開催

民泊施設の新設や新道商店街に飲食業を出店したいと考えている若者は多いようにも聞いているが、次世代を担う若者が出店しやすいような情報を盛り込んだセミナーを開催する。

現在の観光客は必ずしもホテルのような形態を望んではいない。安ければカプセルホテルのようであってもいいし、畳の部屋に布団で寝ることに喜びを感じる人も多いので、現状の家屋形式を大きく改める必要はないように思う。さらに、昔のユースホステルのような宿泊者同士の交流を望んでいる例も多いので、交流し易い構造をもった昔の伊勢町屋はそのまま使える。

宿泊環境としては豪華でなくても、従前生活の歴史感で良いが、そういうものを感じられ(河崎町屋には十分な魅力がある)、「(清潔も含め)小綺麗(物を多く置かないという意)」で、「生活感がない(子供の存在や日常生活が垣間見ることがない)」ことのみを強く印象付けできれば宿泊客に満足されることが多いと考えられるので、大きな設備投資を考えずに、安価に実現できる発想への転換を望みたい。そのためには、まずは上記民泊業や飲食業の衛生管理等の公的規則をよく理解してもらうことで、設備等に既存品が使用できたり、造作を友人などの協力で自作することもでき、安価に開業・開店できる方法があることを知らせることができる。一般的にはそのハードルは高いものを感じられていて、設備投資が足かせになっている可能性がある。

- ・簡単でも「町ごと」統一的なライトアップすれば、それに勝るものはない。

## ○宿泊

- ・宿泊施設の来館挨拶は、「お帰りなさい」と言われると、実家に戻ったように感じて嬉しい。

「いつでもお帰り下さい」といわれるとリピートする結果につながるだろう。

- ・旅行者は地元の人と話したがっている。

旅館等の最初のご挨拶では、「何かお手伝いをすることやご説明することはありますか？」と話のきっかけをつくって欲しい。食事や夜の飲み会先、隠れた近くの散策ルートなどをご案内する。何度か伊勢の有名旅館に宿泊したが、このような話し掛けは一度もなく、寂しかった。

- ・リピータ勧誘のため、「伊勢におかえり」案内を出す。

伊勢の宿泊施設は、伊勢参宮客は一生に一度しか来ないと認識しているように感じられるのが改めたい。お客のメールアドレスを収集して定期的な話題を掲載したメールを発信し、再度の訪問を誘う。

## ○食事

- ・豪華な宿の夕食は1回食べれば満足！

宿の夕食は1泊目のみとするか、朝食のみとし、市内の食堂・酒場・銭湯などと契約して、そこに(社用車、タクシーなどで)送り迎えしてバックマージンを得る。お客はいろいろ不案内な場所に行きたがっている希望が満足できるし、伊勢内で富を広く分配し共有できる。「町ごと共存共栄」である。

- ・既にある御饌井などに加えて、御師料理を再現した伊勢独自の「御師御膳」(弁当やフルコースや各店毎のオリジナル)を全市でアピールしたい。
- ・伊勢うどん食べくらべスタンプラリー。多くは食べられないので小盛を用意して各食堂の味を食べ比べる。

## 4. おわりに

甚大な被害が生じている新型コロナも、早晩、毎年流行するインフルエンザと同様の付き合いになるだろう。その時には人々の観光への欲求は昔の「伊勢参詣」のように衰えはない。そのための伊勢の観光に付いての提案を総花的に記述したけれど、現在は莫大な資本を投下して大規模な施設を建設すれば観光客が押し寄せ、高度成長期のように潤う時代ではないことは明白である。

大胆に「脱伊勢神宮」という発想で、伊勢に愛着を感じてもらえる地道な活動をひとつひとつ積み重ねることによって世界中に「伊勢人」を醸成し、伊勢に繰り返し来てくれるリピータが増えることが地域に雇用を生み、伊勢が発展する道であろうことを確信する。さらに、「リモートワーク」ができる5G環境が町中に普及することができれば、「脱東京」・「地方移住」のターゲットとして「伊勢」が注目されることになるであろう。今回の提案が一つでも実行されることを切に願いたい。

## 5. 参考文献

平成24版 伊勢市史

< おわり >

〒259-1206 神奈川県平塚市真田3-10-18

秋田 耕司

72歳

当論文に関わる所属はない

TEL:090(4375)0051

メールアドレス: koji.akita@nifty.com